

水

京御茶ノ水駅のノバージョン計画

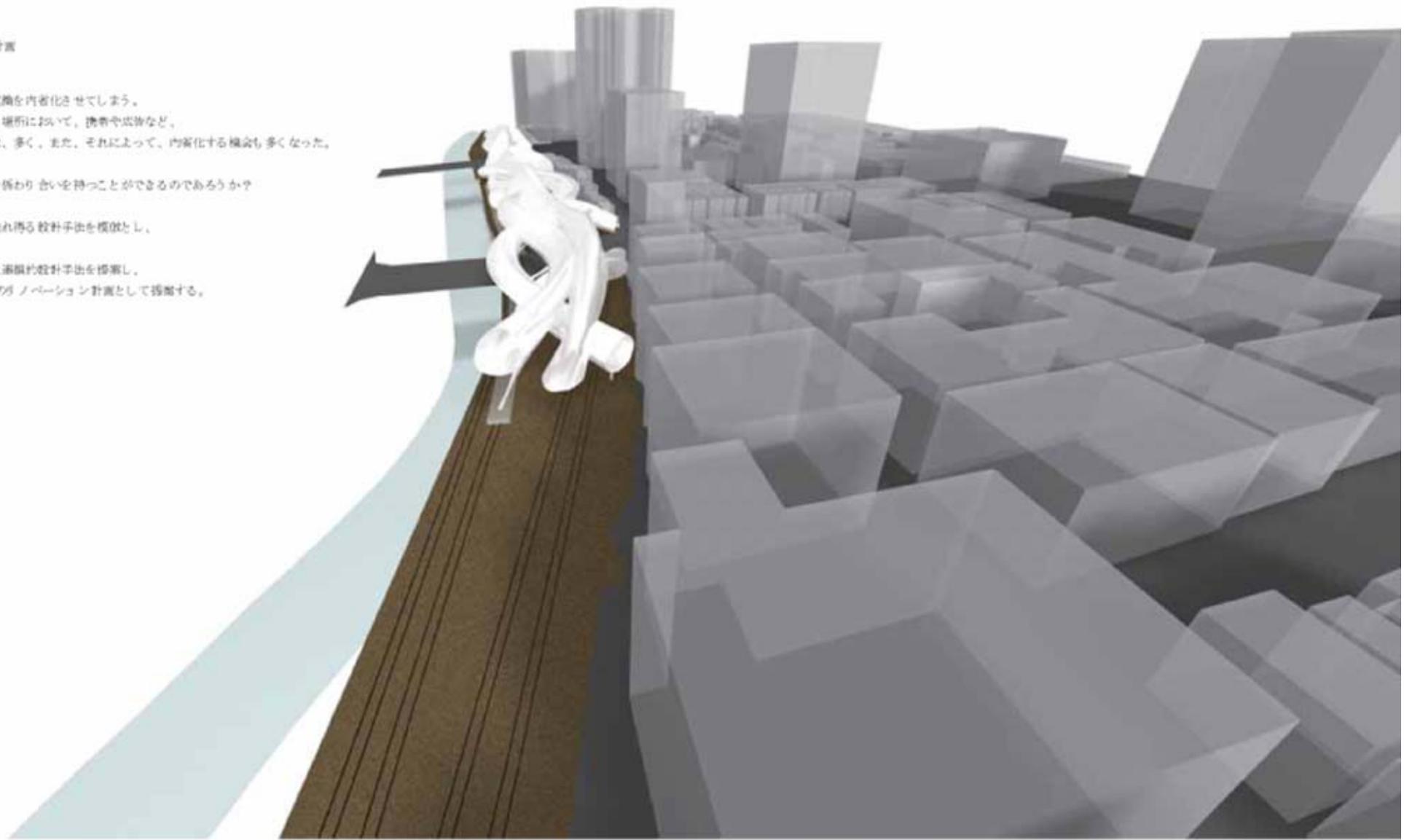
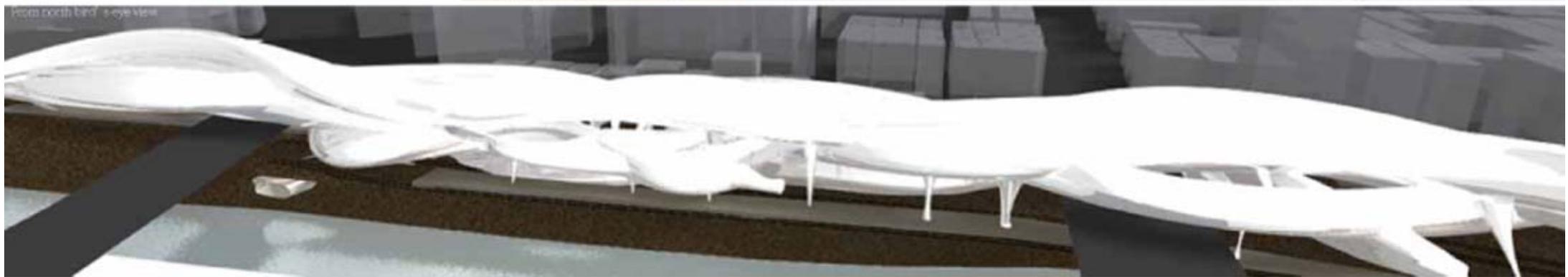
駅のような雑踏の中では、私は意識を内省化させてしまう。  
そのような多くの人々が集まる場所において、携帯や広告など、  
私を内省化させてしまう要素は、多く、また、それによって、内省化する機会も多くなった。

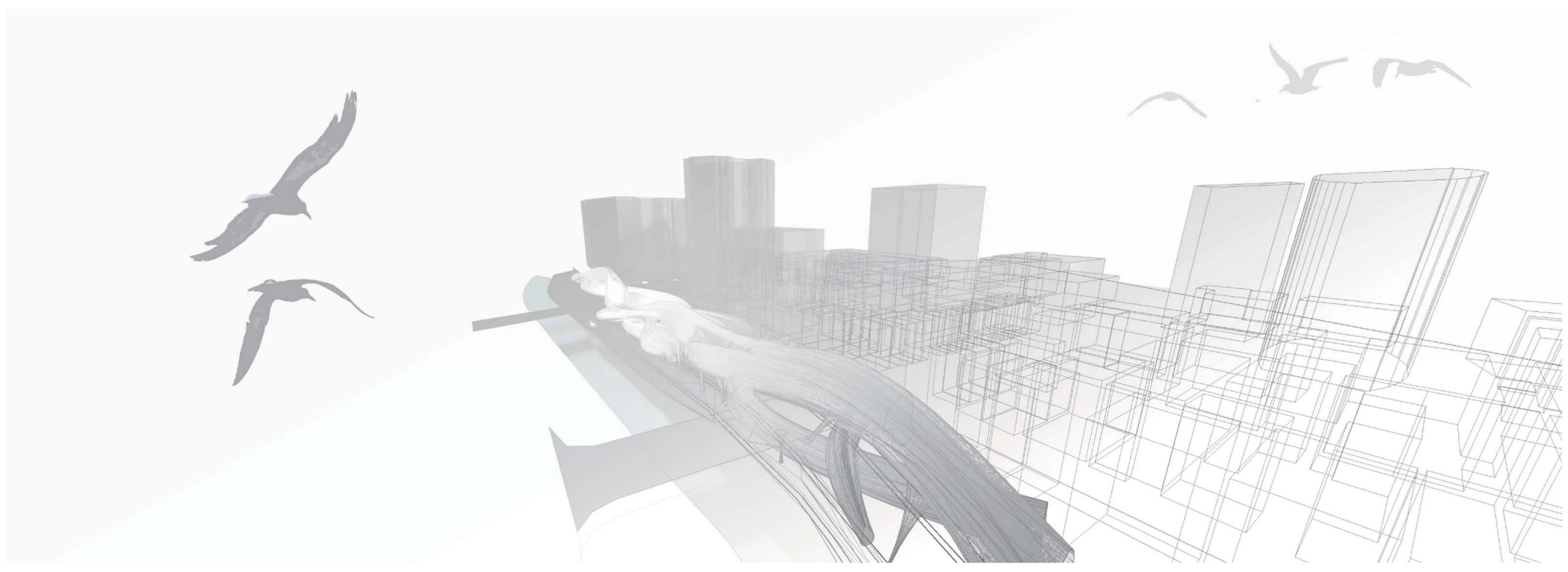
人の意識に、建築はどのような係わり合いを持つことができるのでしょうか？

本設計では、人の意識に最も沁れ得る設計手法を模索し、  
模索対象を水とした。  
そして、模索手法を取り入れた連続的デザイン手法を構築し、  
その設計手法を京御茶ノ水駅のノバージョン計画として展開する。

From east bed's eye view

From north bed's eye view





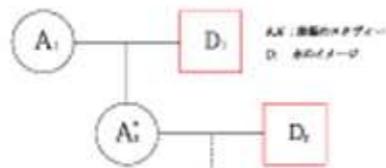






# 連鎖的設計手法

連続的デザインとは、複数のモチーフとあるイメージを結合させ、モチーフを連続させていく。その設計で、連続的デザインとし、下部は、異なるモチーフの連続を意味するものである。



ジュゼッペ・ペリノの「シネマのイメージ」  
ペリノの「シネマのイメージ」1983

Anthony Gormley  
「The weather project」2003

Osaka Museum of Contemporary Art  
「The weather project」2003



映画「エイリアン」  
「エイリアン」1979



連続的イメージ



連続的イメージは、連続的デザイン、連続的イメージを結合させ、モチーフを連続させていく。その設計で、連続的デザインとし、下部は、異なるモチーフの連続を意味するものである。



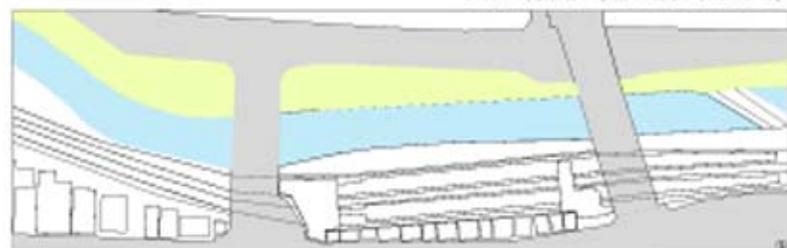
連続的イメージ



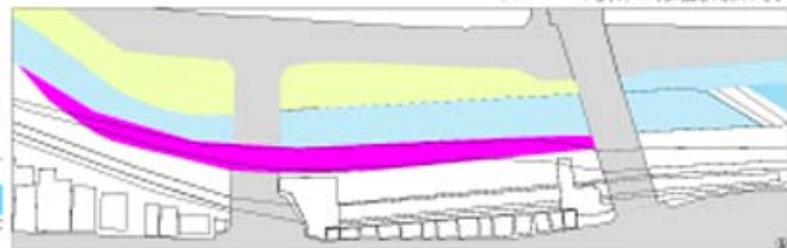
連続的イメージ



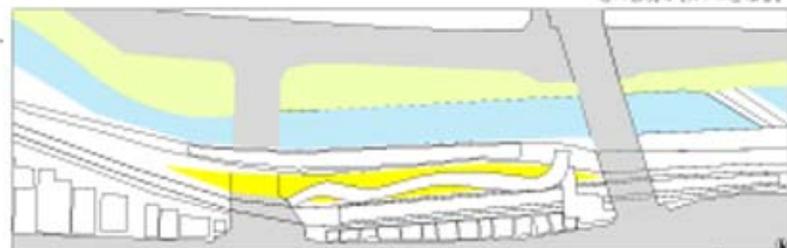
present: 現在の御茶ノ水駅の状況。神田川に挟まれ、狭い敷地。さらに、ホームへの出入り口は、階段と御茶ノ水橋上りしかない。また、神田川沿いの景観は損傷が必要である。そのため、駅自体の改修が困難な状態である。



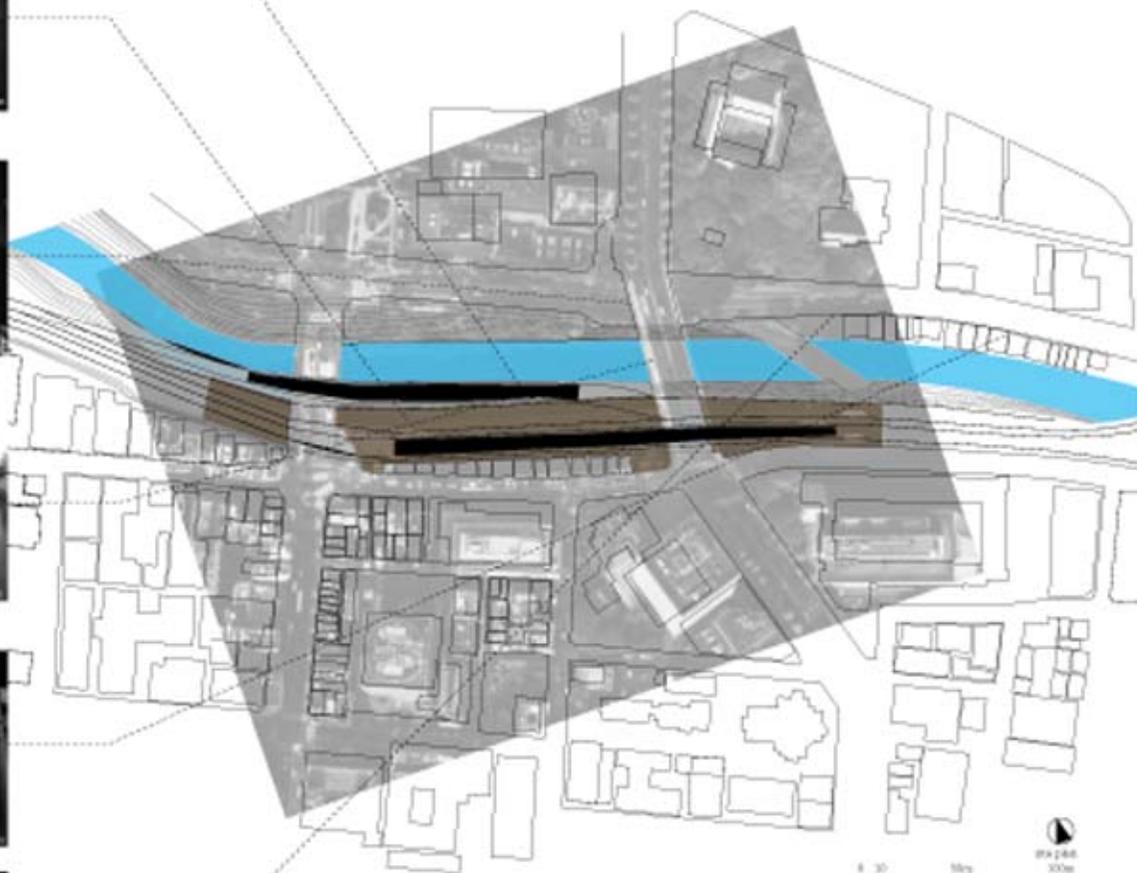
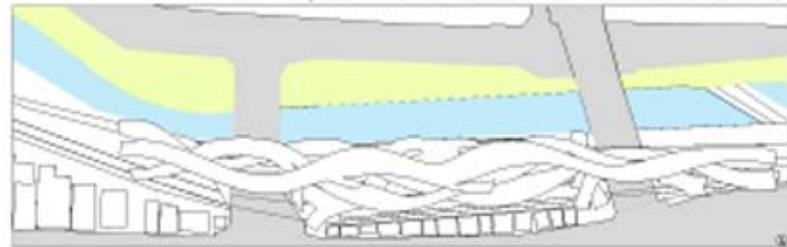
phase 1: まず、神田川をなるべく遮らないように、新しいホームを作る。また、新しいホームのために、HEP&ES工法と柱を用いて、チューブ一本を挿入し、橋梁を補強する。



phase 2: ホームを移動したので、ホーム間にできる空間を有効利用する。この部分が、カフェとなる。



phase 3: 新たに駅舎と図書館を併設した文化複合施設を設計する。



千代田区は、東京23区の中で、公立図書館の蔵書数が最も少ない。さらに、千代田区の図書館は分館であり、西条町図書館、千代田区図書館、神田まらちど図書館、

若平まらちど図書館に分けられている。そこで、本計画では、千代田区図書館の移設、及び蔵書の増加を考慮に入れた設計を行った。図書館の床面積は、1222台に設定し、蔵書数は20万冊を超えるよう設定した。(現在の蔵書数、10万冊)

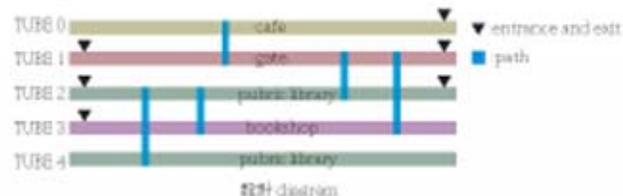
さらに、千代田区図書館では、「としよりのこしよてん」として、書籍の販売などの特売も行っている。

そこで、本設計では、千代田区図書館の新設と、書店、駅をプログラムとして設定した。

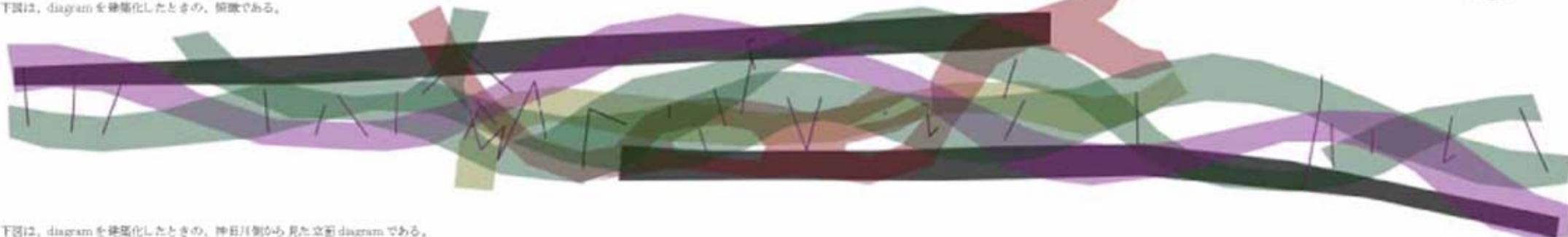


下図は、本設計の diagram である。各プログラムは、各々のエントランスを持ち、またひとつのチューブになっている。各々のプログラムから、他のプログラムへの移行ができるように、path が設けられている。さらに、各々のチューブは、4° 勾配で上り、path もどうように4° 勾配である。この勾配によって、各々のチューブは、緩やかに繋がれている。

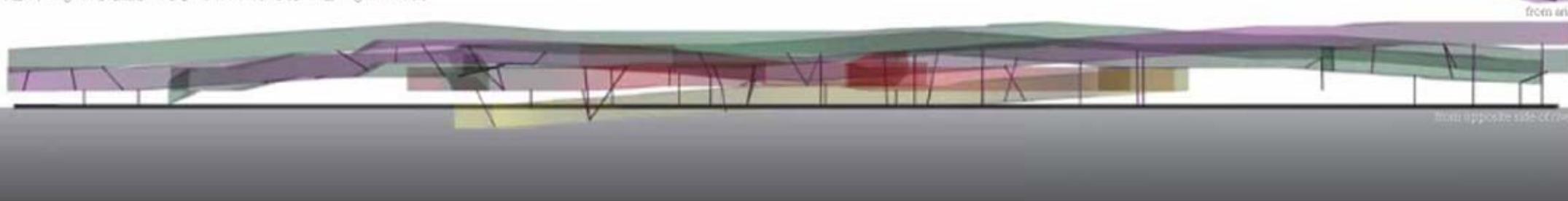
設計 diagram は、以下の図のように、複雑に絡み合ったチューブとなる。



下図は、diagram を建築化したときの、俯瞰図である。

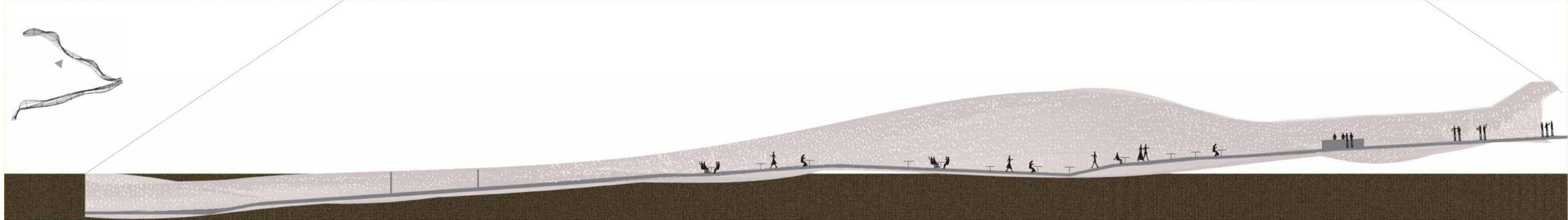
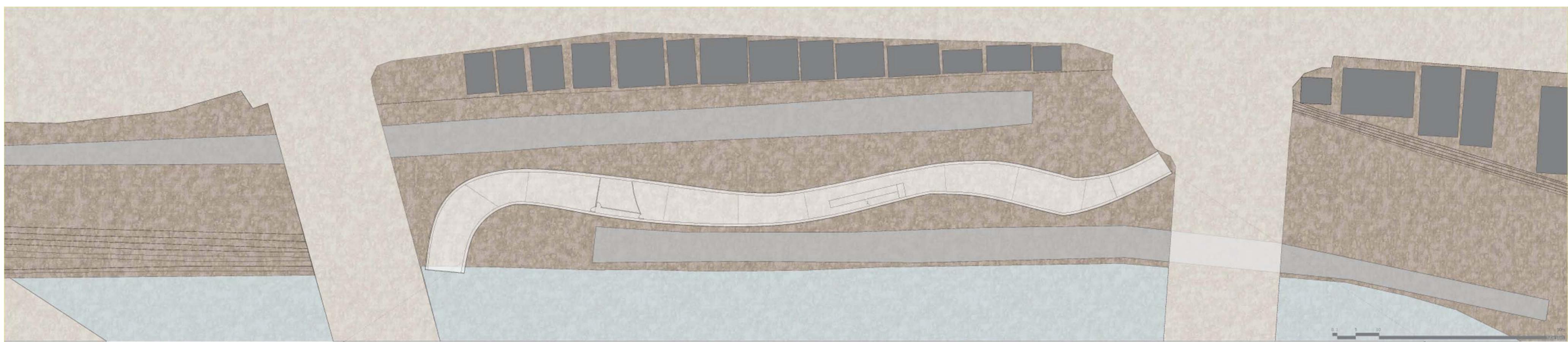


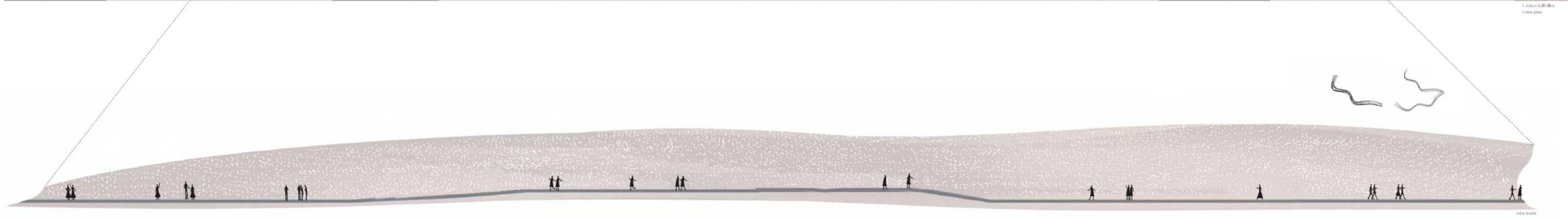
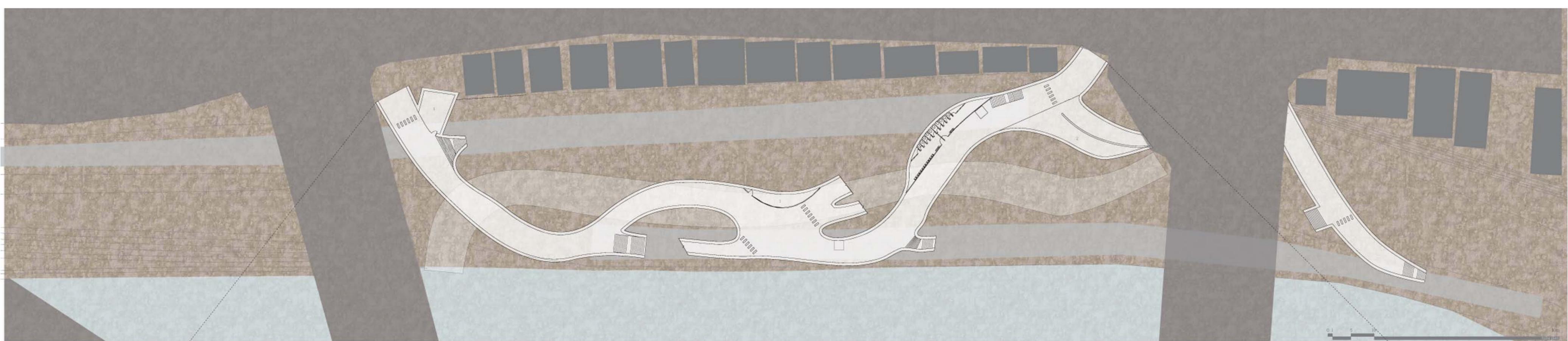
下図は、diagram を建築化したときの、神田川側から見た立面 diagram である。

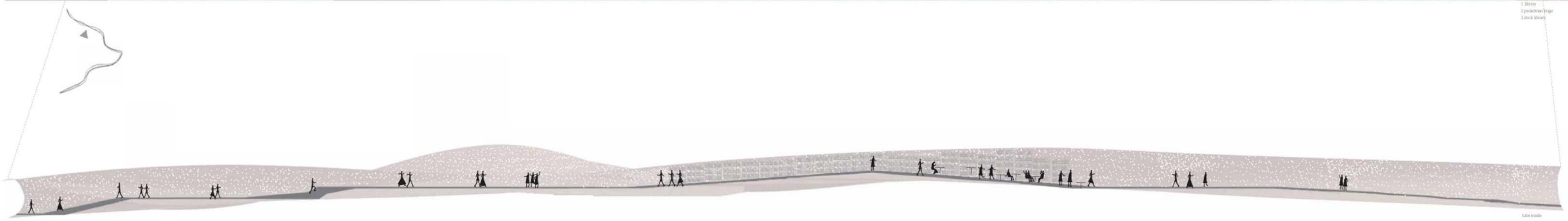
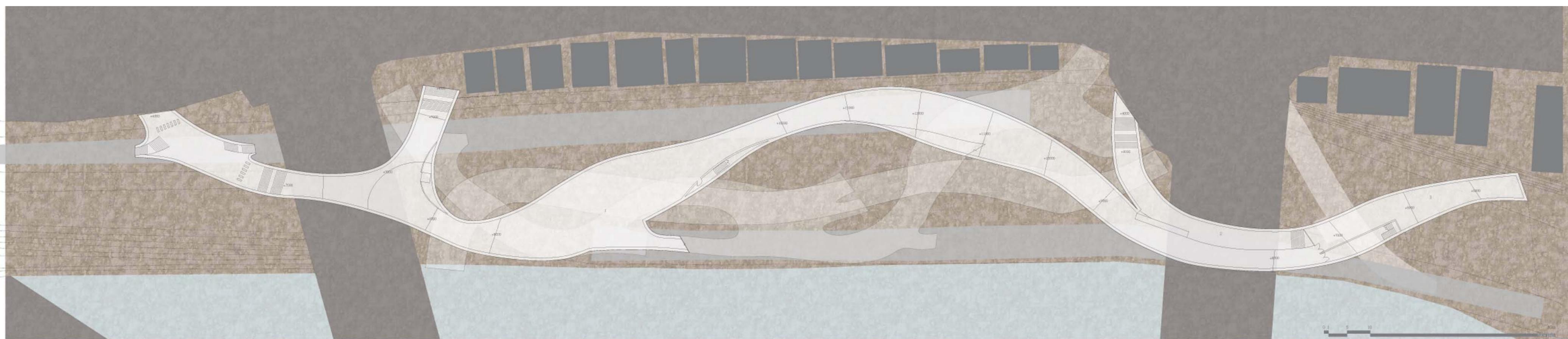


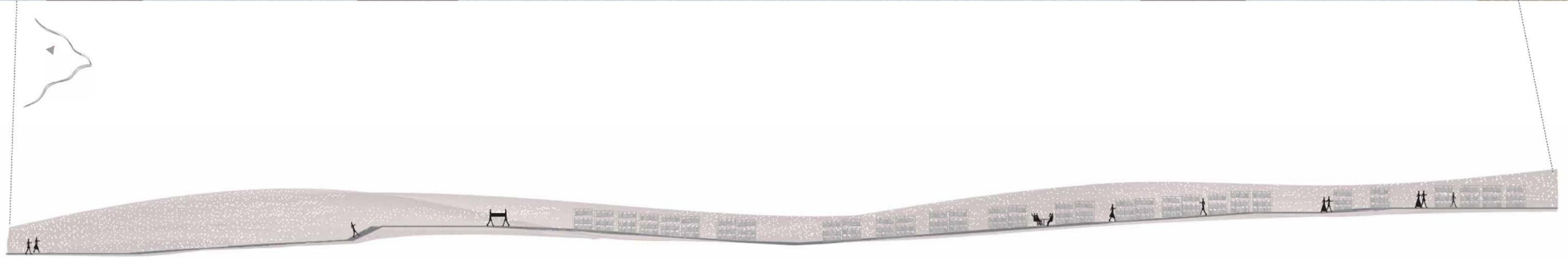
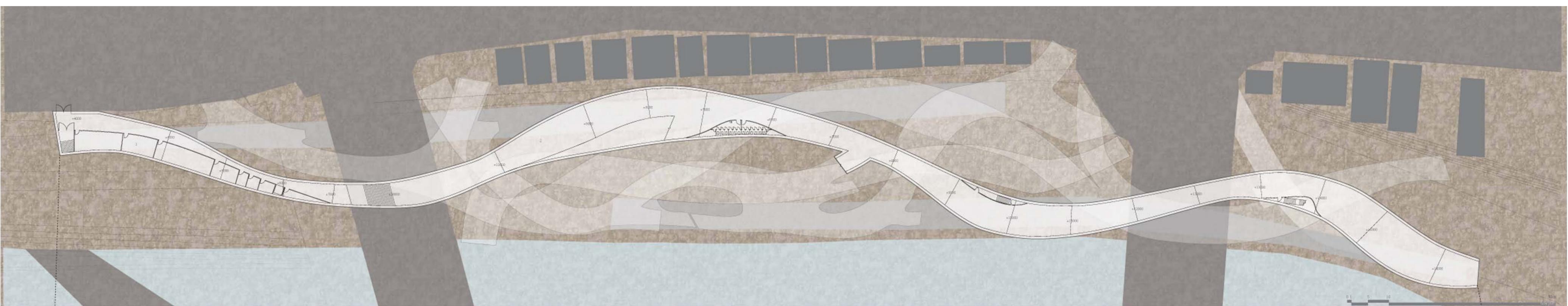
構造は、主に柱梁で構成される。下図は、構造を簡略化したものである。黒い棒状のものが、柱梁の構造を示している。各柱は、1.0~1.5mのスパンドで、地盤と接している。同時に、各チューブをつなぐ構造も、1.0~1.5mのスパンドで各チューブと接している。

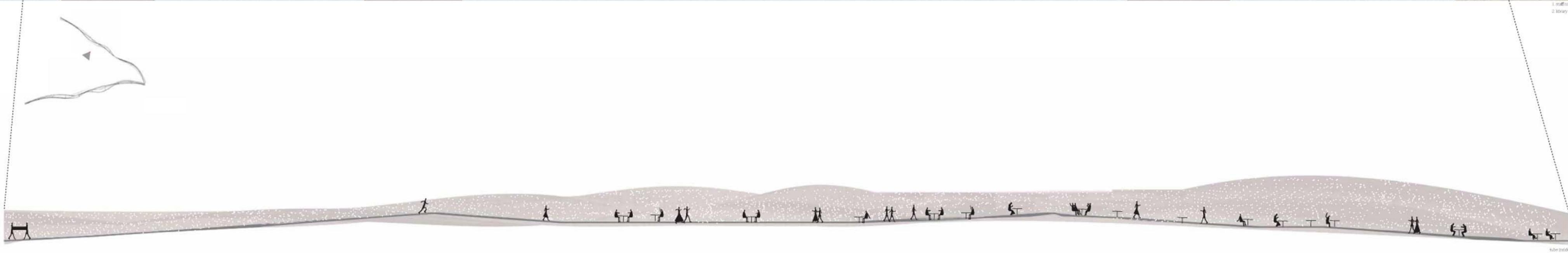
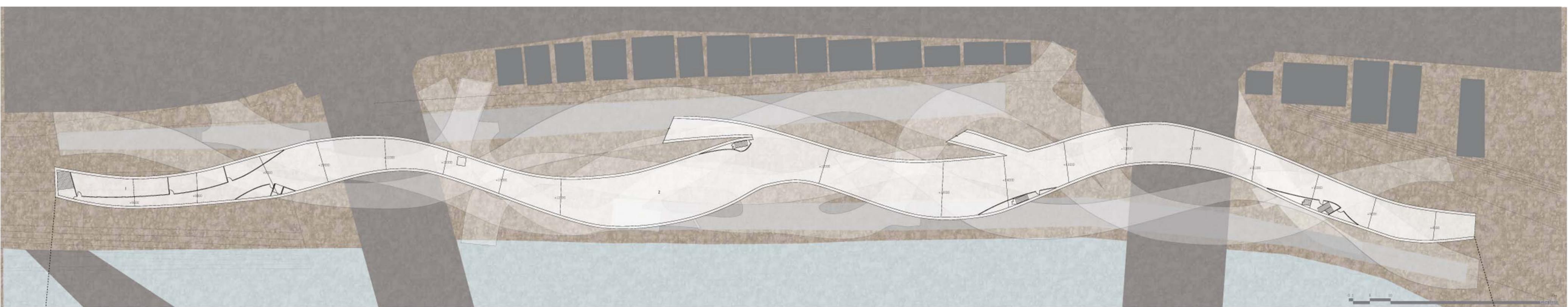
architecture date  
用途地域: 第一種住居地域且つ第一種文教地区  
建蔽率: 60%  
延床面積  
tube0: 1305  
tube1: 1255  
tube2: 3153  
tube3: 2744  
tube4: 3657





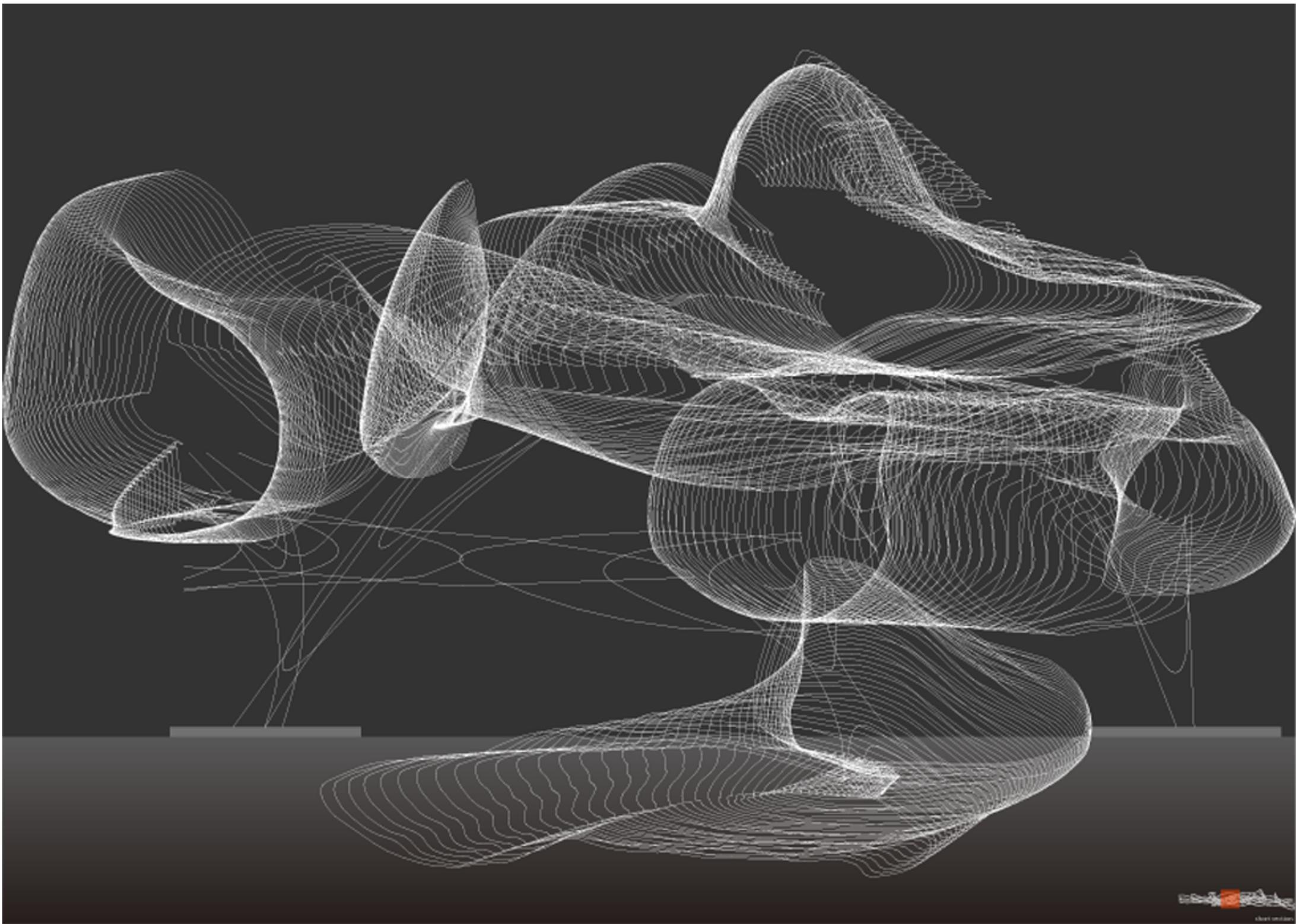


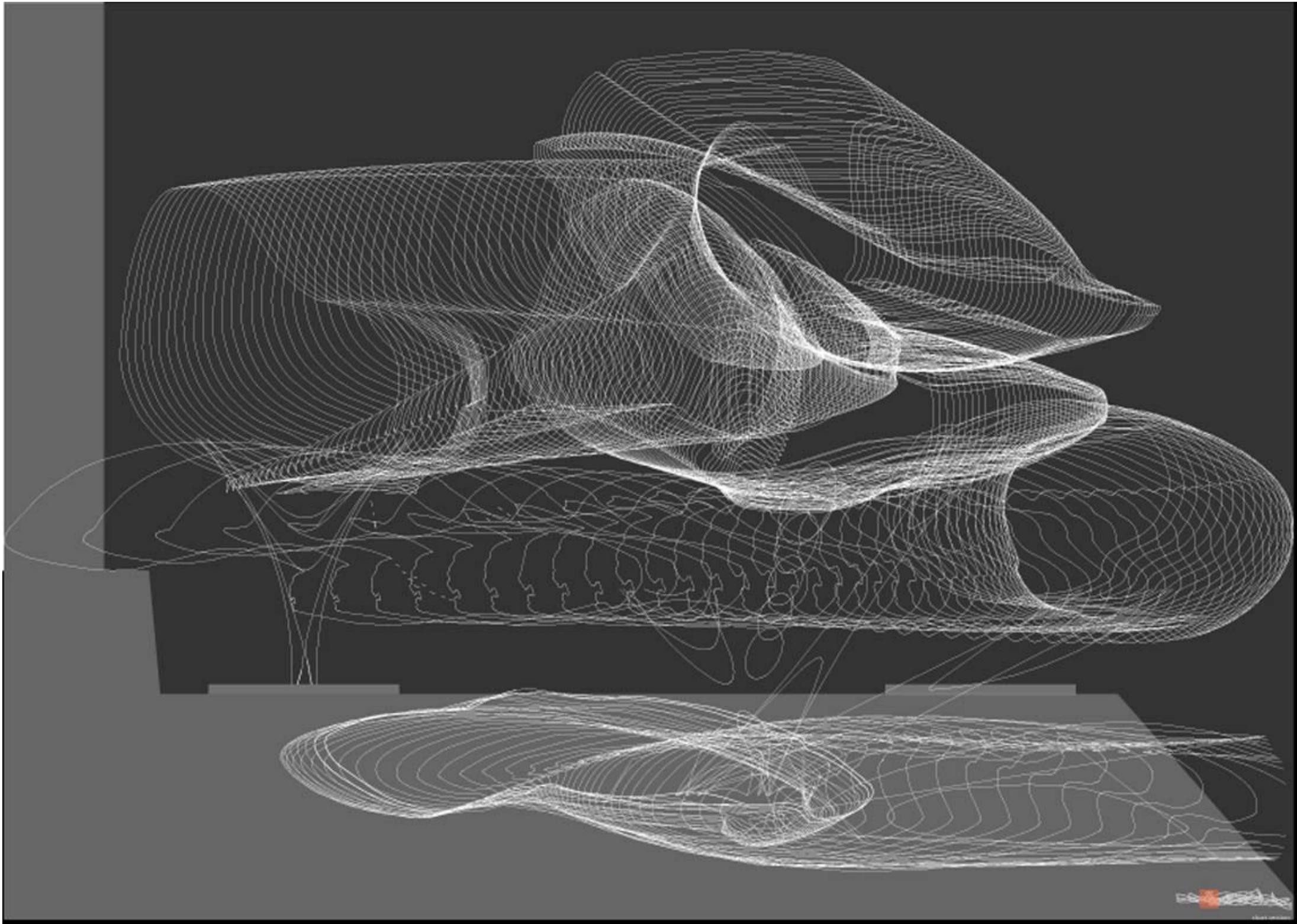


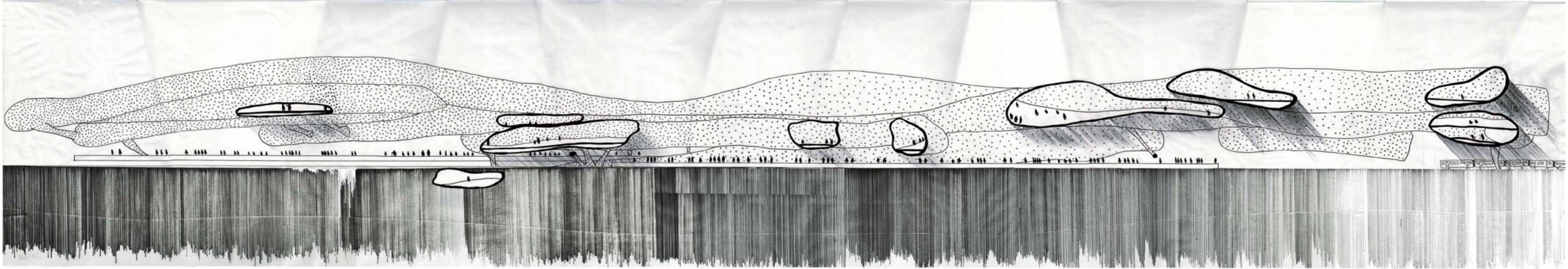
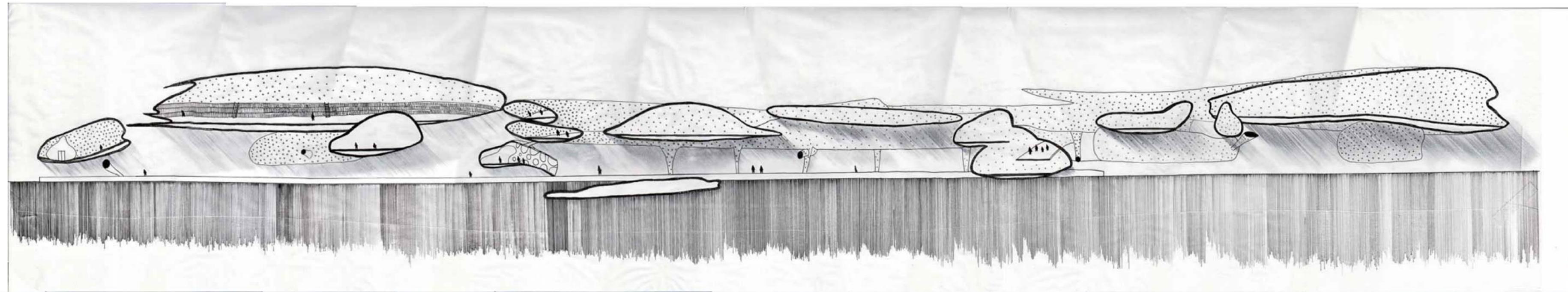


1 staff room  
2 library

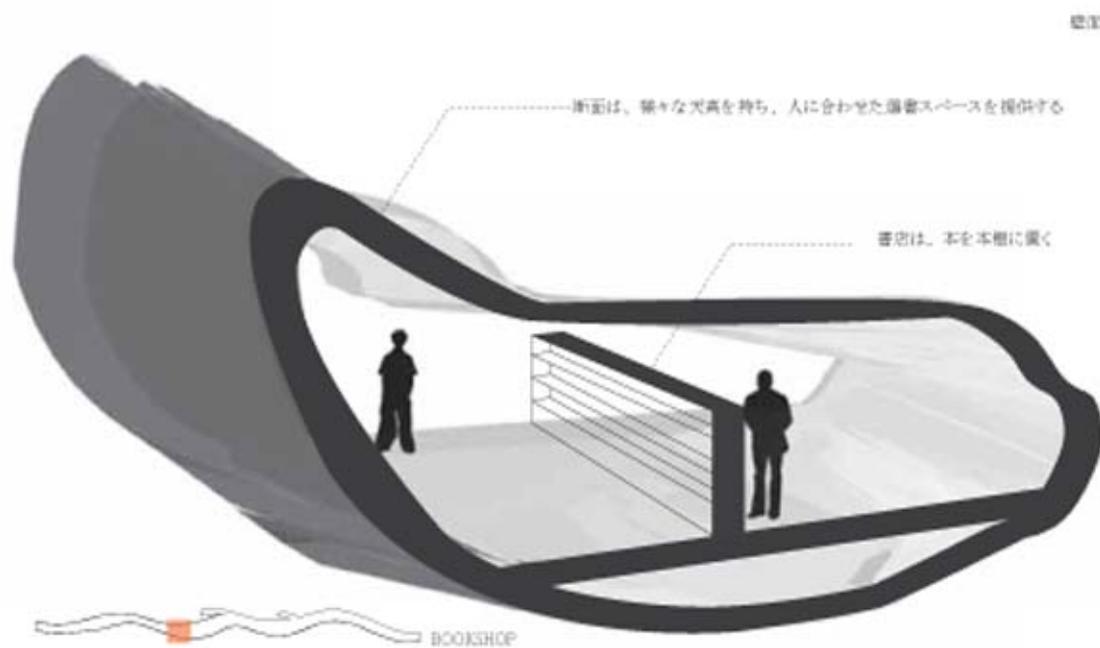
tube tracks







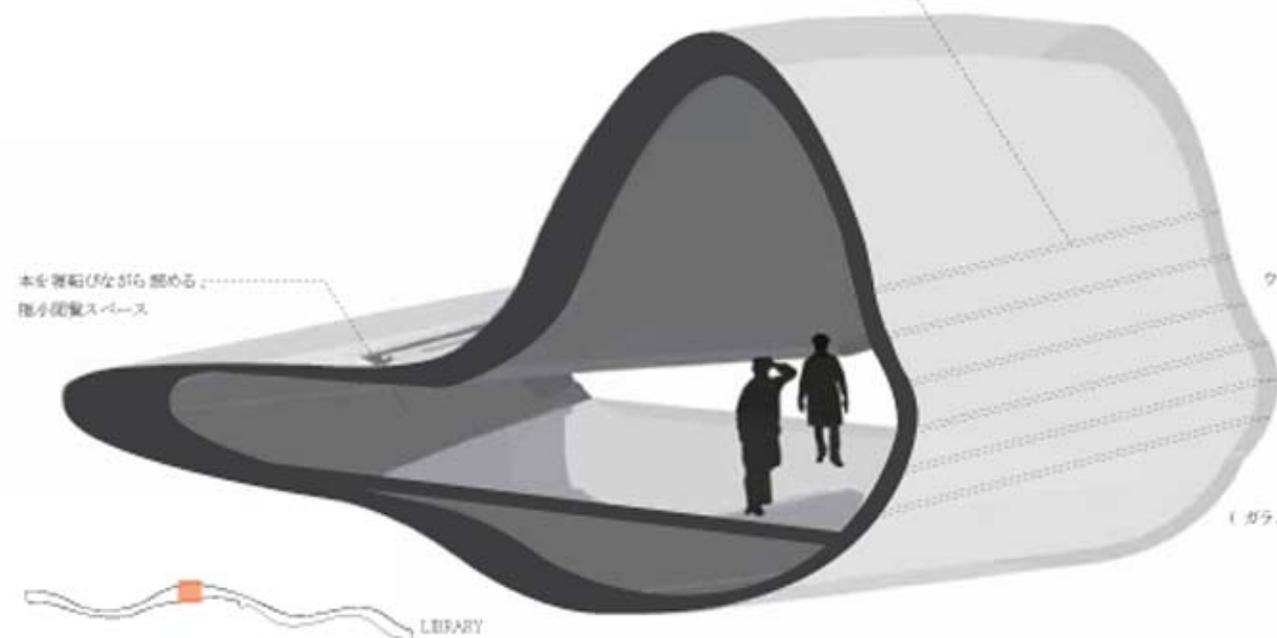




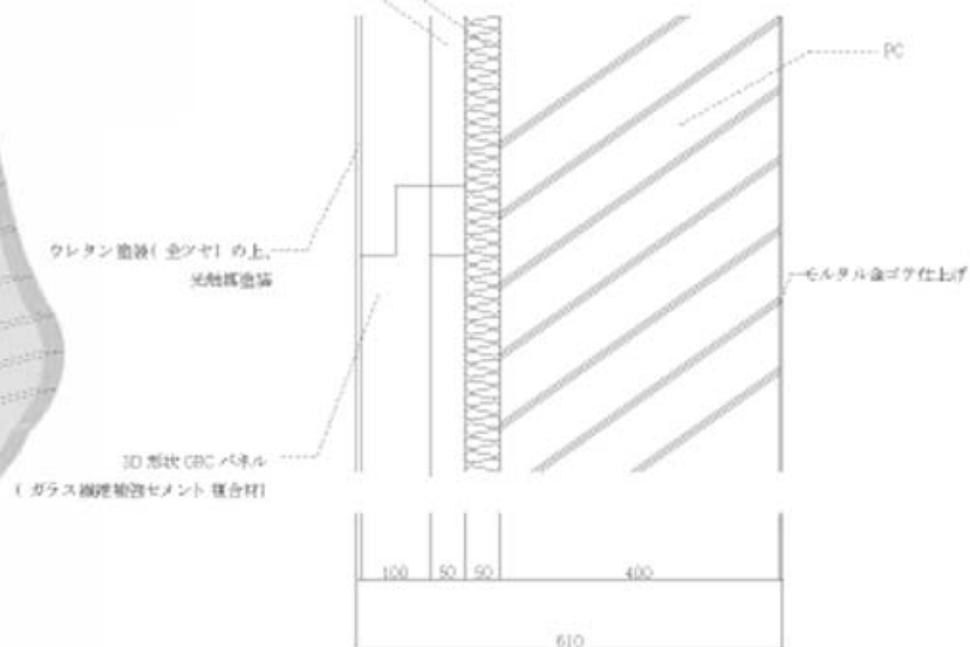
壁面、天井、床の区別のない、チューブ



図書館には、壁面に取り付け式の書棚を配置し、チューブを読書のためのスペースとする



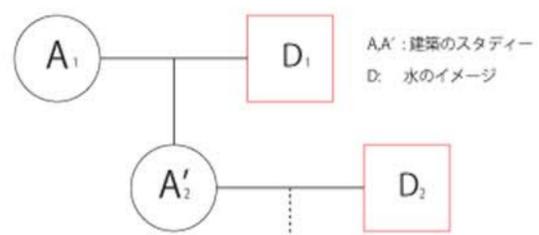
断熱材: スタイロフォーム  
空気層





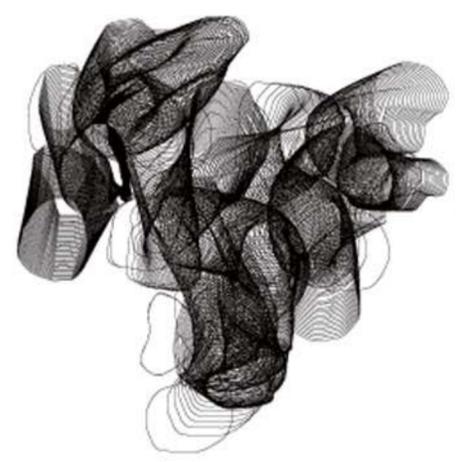
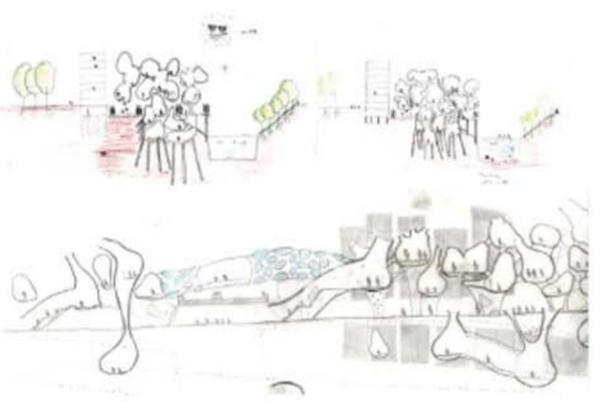
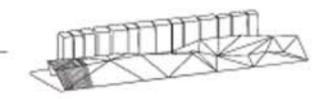
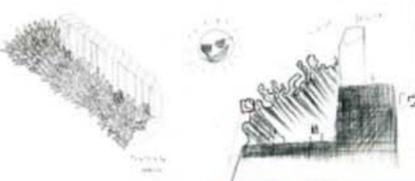
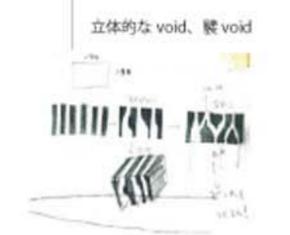
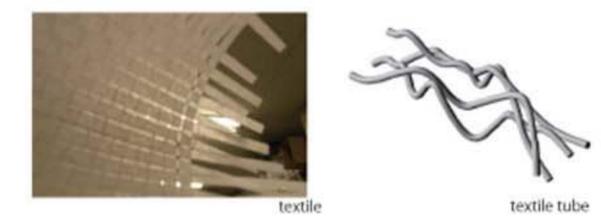
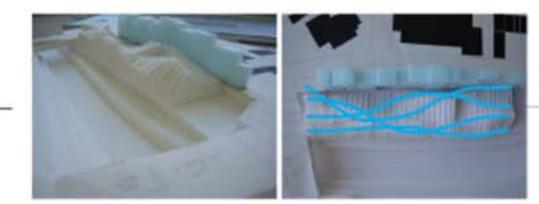
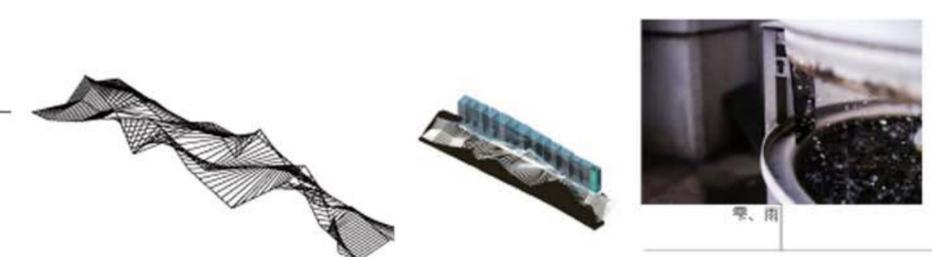
# 連鎖的設計手法

連鎖的設計手法は、建築のスタディーと水のイメージを結合させ、スタディーを変容させていく。本設計では、模倣対象を水とし、下図は、設計のスタディーの変容を表したものである。



川の流れのイメージ  
川の流れのように、流動的な形態。二次元方向ではなく、三次元方向に拡がり、ぶつかり、交わり、また流れていく。

Image



形態は、水道管のイメージを用いるが、void は、襷から得たイメージを用いる。すなわち、地と図が反転しあう建築となり、駅のホームからは、襷 void からおちる光によって、大きな水の空間を体験する。

